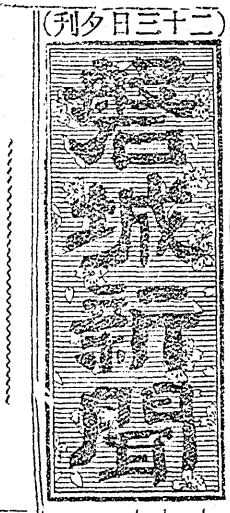
（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和五年六月二十四日　夕刊　城新聞　（火曜日）　（一）

（二十三日夕刊）



樂觀の人生

齋藤昌武

私は最近世の中に於ける、よく働いて働く遊べ人間の生活と云ふものが非常に愉快で面白い樣に感じられて來た、と云ふのは人間の生活、人間の体ぐらいよくつくられてゐるのはないと云ふことにきがついたからだ、よく働いてよくねよく享樂する、この三つの條件が非常によく調和して進んでゐる樣に作られてゐるからである、もし働いた後には身体は自然と休息を要求する休息すれば元氣がつくそしてあらゆるたのしみの機關はみな人々をまちもうけてゐる、たのしみだけではたらかなければそのたのしみすら眞から面白くない。

天は實に美妙に人間生活の眞髓を形つくつたものである。

近頃自分は讀書のひまへゐれば散歩スポーツに都の郊外を全部暮つてゐるそれは非常に氣持よい、青々としげる草、そよふく初夏の風みにしみて愉快と思ふ時は一晩くらいねづともゝ身体の元氣、全身にあふれてくるのを思はずにはゐられない、そうすれば不景氣も就職難もせちからさをつかのま忘れてしまふ、しかれど体の元氣をつけば亦讀書でもしわくなる實にも愉快でたまらない色々と觀しか後だからその愉快さは亦ことさらである。

もし世の中に夜ねられなかつたり何かのもだへにとゝのかされたら惡夢にをそわれたりして氣になる人々があつたなら、こうして人生の美妙なことを知るがいゝつまらなしまずさあいゝ拙につけ愉快な面白い樂觀で世を樂觀してゐればいゝその中には明るい強い人生觀が生れて來よう。その時が悲觀と樂感の一致するところ人生くらいたのしい生活はないのしまないのだ、その人自身の不幸でも

『乙女よ！唄ひ』

植田町渡邊芳園

夢多き日は二度と來たらじ
乙女よ！若き日は惜しみなく
果てしなき虛無の世界へ
夢多き日は過ぎへ行く
乙女よ！たゝ……乙女よ
夢多き日に朗らかに唄ひ
乙女よ！若き日は二度と來たらじ
赤き唇に聲美しく
老ひ去る影宿らぬうちに
乙女よ！唄ひ高らかに
此の世の終りは
暗黑の洞穴なるをもつて
乙女よ若き日に唄へ！高らかに唄ひ
夢多き日に唄ひ
乙女よ！唄ひ！乙女よ

即興歌十首

吉田敢

酒肥りの微雨可愛ゆ愕々の議論を吐けど酒はうましも
黑羅紗の帽を眉深に貞彥の若さを見れば妻ありやなしや
若き女の瞳に追ひつゝも眞面目ぶる多智雄はかなし獨り身なれば

本田微雨

貞彥に敢とや智雄ぶくむ酒の一杯二杯にわれは醉うなり
不思議なる男よ敢もほろ醉ひて萬年青年の氣を吐くはよし
四・路越わたる敢のほろ醉ひてからめづらしも唄ふうたひり

渡邊多智雄

あやしげな手振りかざして慷慨す微雨はやゝに醉ひそめぬらし
黑髮のつやはき乙女にさゝされたる一杯の酒よ戀を覺める

ほろ醉ひの目に親しよもこの家の娘に吾は戀を感すなり
ひそ〳〵と錠子を運び來し君に吾は憧れたり何と呼ぶ娘ぞ

殘思詠

長戸利彥

降りしきる宵十月の秋雨を狂人のごと走り見てまし
秋雨は悲しかりけり獨り居ればひたに忘れあるもの哀ゆ
十月の溫場にひたり飽かず見る五分芯燈の油燒はよし
ふが〳〵の勞咳に伏す友訪へど小兒と遊ぶ感もありけり
いねられぬ己となりぬ二三日夜の來るをひたに憎めり
親しかりし友に逝かれし吾なれば臺灣に行くてこ君も送らず

※明日……舊五月新六月
※吉の凶……曆二八日曆二四日

▲一白の人　次第に順調の日なれと金談緣談面白からず▲二黑の人　何事も面白く順よく運び行く日常業尤も吉▲三碧の人　内を調へば外自ら順に走るべし失物注意▲四綠の人　過分の望みを起さず常業を勵めば進展あり▲五黃の人　小資を以て巨利を得る日移轉動士等も吉し▲六白の人　横道に走りて失敗し易き日萬事手控が安全▲七赤の人　機運可ならず進むも退くも不自由を感ずる日▲八白の人　榮達する日氣必の綻まぬ樣一致した勵むべし▲九紫の人　事業の根柢に動を搖來す日慎重に考慮せよ

講談

幕末の高山彦九郎

（169）

中西洋々作
市施長春畫

機運の嵐（七）

「からして、天明の機運はつひに、骨肉の間に堀られた溝を、更に大きなものにしてしまいました。

勿論、叔父や祖母の言葉もあつて、格別家を出てしまはねばならぬといふやうなことにもならずに終りましたが、彥九郎は、折りがあれば、再び京に出て、竹山との意見の齟齬から、放郷して居た學校建設のこと、その後仕末をしたいと考へて居りました。

その中に、年も改まつて天明五年となりましたが、天も、いたづらに萬民を苦しませることに忍びなかつたものか、前年の不作とは似てもつかない豐年となつて、人民の上に喜びを與へました。

その間にも、ひこ九郎は、たゞず遊思になやまされました。

そこへ、かつて、彼に交通した、水戸の藤田幽谷から、是非あつて、話しがしたいといつて來ましたので、また、草鞋を足にうつしました。

家庭にわすらはしさをもつ彼には、この諸國廻遊ほど一息つく間もなく、いふことがどんなに慰めであるか知れませんでした。

水戸での滯在は、僅か半月に充たぬ程の短い間でしたが、その、青年――といふよりは、むしろ少年といふに近い、藤田幽谷の恰悧さには、流石の彥九郎も舌を卷いて、感嘆しました。

「拙者は、これまで數國の諸國巡遊の旅をつゞけ申しましたが、末だかつて、藤田小太郎程の人物に出逢うたことがない」

かういつて、同じ水戸藩中の長久保赤水に話つた程の人物として、帝國に雌伏する大小の劍士、その中には、尊き堂上のお人から贈つたそれもありました。

が、その喜びも、また束の間でした。

米壽の祝ひをすませて、ほつと一息つく間もなく、祖母のわ里は、病床に倒れ伏す身となりました。

祖母が八十八の祝ひを了へたなら、上洛しようと心思ひ定めてゐたひこ九郎も、これに依つて、その目的を變へねばなりませんでした。

しかも、物事は、また、あまりに簡單に運んで行きました。床につくかつかぬ祖母わ里の魂は、とはにかへらぬ旅路にいそいでしまいました。

中井竹山と意見を異にするを以て、多年辛苦を忘れ、經營につとめた京學與またその人の死を見る――歸途には、また下野に赴で、經營につとめた京學與またその人の死を見る――

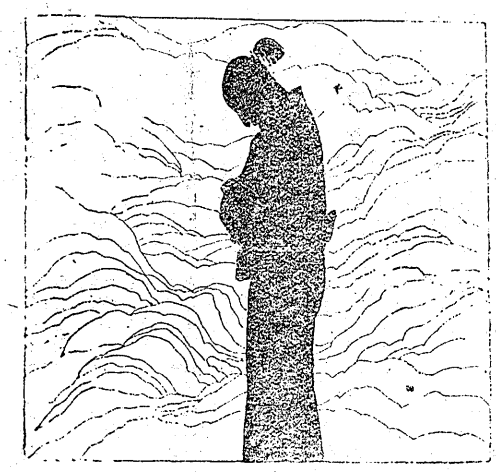
君平の居をたづねました。が、合憎のことには、暫く遊學中とかで、つひに面後することを得ませんでした。

つゞいて、天明六年には、祖母わ里の米壽の祝ひが訪れました。

「これが拙者、今生の御奉仕」

かねゝ生母にもまさる慈愛をうけた、祖母に對する、最後の孝行をいたすべきだと思つて、遠く、書を出して、友人知己から、祝賀の文をよせられんことを囑しました。

ひこ九郎の存在が、絶大の信用を同志の間にもつてゐたことですから、誰も、みな、喜んで、その求めに應じました。學者文人を始



め、諸國に雌伏する大小の劍士、その中には、尊き堂上のお人から贈つたそれもありました。

が、その喜びも、また束の間でした。

米壽の祝ひをすませて、ほつと一息つく間もなく、祖母のわ里は、病床に倒れ伏す身となりました。

祖母が八十八の祝ひを了へたなら、上洛しようと心思ひ定めてゐたひこ九郎も、これに依つて、その目的を變へねばなりませんでした。

しかも、物事は、また、あまりに簡單に運んで行きました。床につくかつかぬ祖母わ里の魂は、とはにかへらぬ旅路にいそいでしまいました。

中井竹山と意見を異にするを以て、多年辛苦を忘れ、經營につとめた京學與またその人の死を見る――

歸途には、また下野に赴で、經營につとめた京學與またその人の死を見る――

君平の居をたづねました。が、合憎のことには、暫く遊學中とかで、つひに面後することを得ませんでした。

つゞいて、天明六年には、祖母わ里の米壽の祝ひが訪れました。

「これが拙者、今生の御奉仕」

かねゝ生母にもまさる慈愛をうけた、祖母に對する、最後の孝行をいたすべきだと思つて、遠く、書を出して、友人知己から、祝賀の文をよせられんことを囑しました。

ひこ九郎の存在が、絶大の信用を同志の間にもつてゐたことですから、誰も、みな、喜んで、その求めに應じました。學者文人を始め、諸國に雌伏する大小の劍士、その中には、尊き堂上のお人から贈つたそれもありました。

が、その喜びも、また束の間でした。

米壽の祝ひをすませて、ほつと一息つく間もなく、祖母のわ里は、病床に倒れ伏す身となりました。

祖母が八十八の祝ひを了へたなら、上洛しようと心思ひ定めてゐたひこ九郎も、これに依つて、その目的を變へねばなりませんでした。

しかも、物事は、また、あまりに簡單に運んで行きました。床につくかつかぬ祖母わ里の魂は、とはにかへらぬ旅路にいそいでしまいました。

中井竹山と意見を異にするを以て、多年辛苦を忘れ、經營につとめた京學與またその人の死を見る――

歸途には、また下野に赴で、經營につとめた京學與またその人の死を見る――

君平の居をたづねました。が、合憎のことには、暫く遊學中とかで、つひに面後することを得ませんでした。

つゞいて、天明六年には、祖母わ里の米壽の祝ひが訪れました。

「これが拙者、今生の御奉仕」

かねゝ生母にもまさる慈愛をうけた、祖母に對する、最後の孝行をいたすべきだと思つて、遠く、書を出して、友人知己から、祝賀の文をよせられんことを囑しました。

ひこ九郎の存在が、絶大の信用を同志の間にもつてゐたことですから、誰も、みな、喜んで、その求めに應じました。學者文人を始

休刊　大祭日
定價　一ヶ月　一部二錢　郵稅一錢　六十錢　十五錢
廣告料　登行六十錢　指定廿錢
發行兼印刷人　福島縣平町田町十六番地　藤沼醫院
發行所　城新聞社　電話五六番

營業種目

内地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負其他

佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平國五〇七番

専門　内科一般
内科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五
川井内科診療所
電話七二二番
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

夜診
胃腸
内科
十二指腸病
専門
内科部
淋病
婦人病
皮膚病
専門
外科部
松村胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）
診療

改稱廣告
初夏の候と成りました皆々樣愈々御健勝の段慶賀の至りに存じます幣店開業以來多大の御引立に預り厚く御禮申上ます
就ては小店儀好間村に弊店同一の屋號有ります爲、通信、其他間違の點多きを以て五月二十六日より平町高橋時計店事屋號精幸堂（セーコー）と改稱致しました。不相變御用御願申上ます
高橋時計店事改め
セーコー堂時計店
平町土橋通り

外科一般（入院隨意）
内臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

平魚市場問題
昨日兩者が接衝
野上商工課長仲裁で 今明日に解決か

平町魚市場對石城郡鮮魚商組合の紛爭は今日まで解決を見ずに居たところ鈴木縣議等の奔走で野上商工課長來平二十二日午後一時より平町住吉屋本店に兩側の代表會見妥協に就き接衝を兼ねた即ち仲裁者側から野上商工課長立花小名濱漁業組合長代理鈴木縣議高橋町魚市場等魚市場側より加納社長野崎重役伊藤彌平の諸氏組合側から組合長鈴木又六氏外幹部二十七名等出席の上先づ仲裁案として

一、組合の現建物及諸費用として若干金を市場かな負擔すること等の二案を提出したので、之れに對し市場側では幹部の改選は保留を表明し最後の案に對しては一致案を見出したものゝ如く結局仲裁者側の奔走に依り今明日中圓滿解決を見るに至るでもらうと

一、鹽干物及鮮魚に付き組合に二分割戻し更らに一分を割戻して組合の基本金となすこと

の案を提出したのに對し兩者は異議なく之れを承認したが組合側より

一、前仲裁者案の外に魚市場幹部全部改選する事

石城地方の米價漸騰
農繁期で

石城郡下の米價はさる十五日より玄米一俵十圓二十一錢臺を往來してをり白米の如きも二十一日來より一キロ一等二十二錢五厘二等二十二錢、並等二十一錢五厘約一錢强の値きを見てを農繁期を機とし漸次高騰するものとの豫想されてゐる

鐵道の大整理で
驛長助役の移動
近く第二回整理發表 驛員等びくく

鐵道省では人件費切り詰めの結果職員の大整理を行ふことに決し二十一日午後高等官及判任官級驛長助役免官を行つたが之れに伴ひ大移動が發表されたが水戸連輸事務所管内中石城郡内等の移動左の如し

高萩驛長　麻植晴吾平驛長を命ず
下孫同　植田驛長大沼忠顯
植田同　小川郷同島田竹松
小川郷同、内原同　飯田龜雄
羽黒同　平驛助役打越俊免官
同　平機關庫主任鈴木宗吾

平局の電話
共電式に
交換壞養成

平郵便局新廳舍も愈々竣工近く遷くも今月下旬までには内部構造竣工の上工事諸負人の手を離れ來月上旬廳大な移廳式を擧行する運びとなつてゐる新廳舍と同時に獨立して新設された交換局は鐵筋コンクリートの高層な二階建然も交換機は在來の單式を共電式に改めたものでこれがため交換方法も簡便となるが現在の交換手では間に合ないので過般千葉書記以下六名の交換手が仙臺遞信局に出張共電式交換技術の講習を受けてゐたが二十日修了更に第二回講習を受ける爲め菅谷書記外五名の交換手が仙臺遞信局に出帳した

松川浦に負けぬと
四倉町の修港案
縣と安藝博士に 町から躍起運動

石城郡四ッ倉港と相馬郡中村町松川浦の第二種港灣の實施計畫はその何れか一港か本年度から着手されることになつてゐるが安藝工學博士が下見のため過般來縣調査の上目下飯坂温泉に滯在中なので四ッ倉港灣期成同盟會では委員を擧げ目下縣に向つて猛運動を續けてゐる

石城郡四ッ倉港と相馬郡中村町は酌婦取締規則の改正によりそれ對策を考究したが良案なく結局警察のいふ通り大体塩にはまつたやうに酌婦部屋を改造することになり各店共そろ〳〵構造替へに取かゝつたが一丈もある青竹で小綺麗な棚をめぐらし白首の委は見ゐなくとも飲食店だと言ふことをはつきりさせ、しかもひやかし客の妻も道路から見えぬ樣な仕掛に造つたものゝありこれ等迚て常運には都合よいやうで繁昌疑ひなしと見られてゐる

平の白首街
店構への改造に取掛る
平署の嚴命で

平町夜の盛り場南町白首街の裏に充分に認め得るのである。

近世に至つて生活と直接に結びつかれた運動——勞働運動の如き……が盛んになりつゝある、教師も亦こうした問題について立たねばならないと見らる、事實十四五兩日に開かれた縣下教育總集會に於て協議題として提出され樣とした「小學校教師生活權確立について」……但この通りには提出されないのだから明瞭ではないが意味に於ては問題違ひはないと思ふ對稍として討究しようとした結果に外ならない。

所がその筋の注意により題目は少し尖端的とあつて改題を仰せつかり「……の地位の安定」についてとして提出された、然しその後下教育總集會に於て協議題として提出される樣とした「小學校長の俸給」に關する「小學校長の俸給を國庫補助直接支給」について……但この通りには提出されないのだから明瞭ではないが意味に於ては問題違ひはないと思ふ對稍として討究しようとした結果に外ならない。

所がその筋の注意により題目は少し尖端的とあつて運動の輿論喚起の意志をそこに結びつかれた運動——勞働運動の如き……が盛んになりつゝある、教師も亦こうした問題について立たねばならないと見らる、事實

生活擁護運動
出發點の吟味

齋藤生

○

この所論は昭和五年六月

○

自分は建議の内容をひつくるめて生活安定擁護運動を解するすべてその問題が本當に自己に關係する限り我々は他の何人よりもこの事に對して強いて心と充分の批判的檢討を必要事としなければならない、勿論このときの批判が哲學商賣人の「先驗的」な純粹理性に從つて客觀的な「規範」を求めるといふ意味でなくこの社會の動きと直接的に能動態としてそのまゝ把握しようとする「試み」をさすのである。

或は「の言わふとするのは社會的に理解されたる教師の位置といふことになるかも知れないそうなると文化哲學のいふ理解の意味にしたがつて第三の精神構造なのであるから、我々が生くるめて生活安定擁護運動と解するすべてその問題がないことになり、本當に自己に關係する限り我々は他の何人よりもこの事に對して強いて心と充分の批判的檢討を必要事としなければならない、勿論このときの批判が哲學商賣人の「先驗的」な純粹理性に從つて客觀的な「規範」を求めるといふ意味でなくこの社會の動きと直接的に能動態としてそのまゝ把握しようとする「試み」をさすのである。

○

事實から出發した問題であるだけに我々は充分色々な意味から贊意をその意志に對して……表したものであるまつて全般的に我々教師の生活の安定、生活擁護運動の輿論喚起の意志をそこの裏に充分に認め得るのである。

近世に至つて生活と直接に結びつかれた運動——勞働運動の如き……が盛んになりつゝある、教師も亦こうした問題について立たねばならないと見らる、事實

○

事實から出發した問題であるだけに我々は充分色々な意味から贊意をその意志に對して……表したものであるまつて全般的に我々教師の生活の安定、生活擁護運動の輿論喚起の意志をそこの裏に充分に認め得るのである。

○

一般に我々は一つの大衆運動が盲目的運動をすることを知つて居る、少くともいくら注意してもそうした傾向は否めない。

否をい、ふべくもない眞理と云ふのはそれ自身相對的であつて、與へられた環境と關聯して判斷された結果なのであるから、我々が生活事實にあたしされて結ばうとしたのであるが、我々は亦こうした問題について立たねばならないと見らる、事實

自分は勿論その所論が一歩でもそれ以上であればいゝのであるが或はそれ以下ならば、勿論このときの批判が哲學商賣人の「先驗的」な純粹理性に從つて客觀的な「規範」を求めるといふ意味でなくこの社會の動きと直接的に能動態としてそのまゝ把握しようとする「試み」をさすのである。

或は「の言わふとするのは社會的に理解されたる教師の位置といふことになるかも知れないそうなると文化哲學のいふ理解の意味にしたがつて第三の精神構造なのであるから、我々が生くるめて生活安定擁護運動と解するすべてその問題がないことになり、本當に自己に關係する限り我々は他の何人よりもこの事に對して強いて心と充分の批判的檢討を必要事としなければならない、勿論このときの批判が哲學商賣人の「先驗的」な純粹理性に從つて客觀的な「規範」を求めるといふ意味でなくこの社會の動きと直接的に能動態としてそのまゝ把握しようとする「試み」をさすのである。

或は「の言わふとするのは社會的に理解されたる教師の位置といふことになるかも知れないそうなると文化哲學のいふ理解の意味にしたがつて第三の精神構造なのであるから、我々が生くるめて生活安定擁護運動と解するすべてその問題がないことになり、本當に自己に關係する限り我々は他の何人よりもこの事に對して強いて心と充分の批判的檢討を必要事としなければならない、勿論このときの批判が哲學商賣人の「先驗的」な純粹理性に從つて客觀的な「規範」を求めるといふ意味でなくこの社會の動きと直接的に能動態としてそのまゝ把握しようとする「試み」をさすのである。

○

一般に我々は一つの大衆運動が盲目的運動をすることを知つて居る、少くともいくら注意してもそうした傾向は否めない。

田人村の詐欺事件
來廿八日 福島で公判

石城郡田人村大字黑田字高田蛭田富治(六二)は去る大正十年中同郡植田町字本田馬上龜之助に對し田人村にある同人所有の杉立木を四百圓で賣却し内金二百圓を受取り殘金二百圓は馬上所有の畑二段一畝歩を抵當權設定したが同十二年に馬上が殘金を支拂つたにもかゝはらず本年一月平區裁判所に支拂命令を申請し二百圓を詐取せんとしたこと發覺詐欺罪として來る二十八日福島地方裁判所に於て公判

昨日磐中コートで
關東北軟球大會
平奥津、鴻池組優勝

平町磐城軟球協會主催第三回關東北軟式庭球大會は二十二日午前八時から磐中コートに於てAB各組に別れ擧行したが參加申込み六十チーム中棄權わづか三組で白兵戰を演じた、戰績左の如し

第一回戰不勝一勝

第二回戰
鴻池　奥津平　四—〇　小泉　松本　新町

第三回戰
鴻池　奥津平　四—〇　鎌田　古河　日星

準決勝(Aコート)
市川　常磐　四—二　吉田　小野　九曜
橘
中野　鴻池　四—一　鴻池　奥津平
但野　仙鐵
(Bコート)
小笠原　子常　四—〇　梶田　赤澤　好間
金
後藤　仙鐵　四—一　樫村　芝内　秋葉
島

◇準決勝
後藤　仙鐵　四—〇　小笠原　子日
島　金
奥津　鴻池平　四—二　市川　日立
橘

◇決勝戰
奥津　(平)　2—4　鴻池
6—3　後藤
5—3　仙鐵
4—2　島
4—1

かくて四一のスコアーで平奥津鴻池組が前年の優勝者仙鐵組を破り優勝した

仲間町方面
盗賊跋扈
平署が活動

平町仲間町某八百屋の裏口より去る十六日午後十一時頃鐵道員の制服で忍び入つた賊があつたが家人に發見一時頃第一斜坑の石炭運搬されたものであると

鮮魚商組合總會
二十四日に開く

平鮮魚商組合では廿四日午前九時より白銀町取引所にて臨時總會を開くと

磐城時報社主催
縣下野球大會
きのう磐中球場で 双中つひに優勝

平町磐城時報社主催第二回縣下中等校野球大會は二十一、二十二の二日間磐中グラウンドに於て開催左の如き戰跡で決勝戰に於て磐中惜敗し遂に双葉中學チームが優勝した

第一回戰
相中惜敗
對双中戰三A二で

第一第第一回戰相中對双中試合は二十一日午後三時から石坂球小野墨審判のもとに相中先攻で開始したが三アルファ對二で相中惜敗した、閉戰四時半

双葉　0 1 0 0 1 1 A
相馬　2 0 0 0 0 0 0　23A

第一回戰
安中大敗
對磐中十九對九で

平町に於ける縣下中等校野球大會第二日は二十二日午前八時半から前日同樣磐中グラウンドに於て鈴木(球)大平(墨)審判の下に第二回戰安積、磐城の對戰安中先攻で接戰安中奮戰したが三回目で一塁に十點を入れて九A對九で磐中大勝した

	安積	磐城
	5	0
	3	0
	1	0
	0	1
	0	7
	0	1
	0	1
	A	A
	19	A9

田中惜敗
双中十一A對八で勝つ

双葉中學對田村中學は正午より田中先攻で開始十一A對八で田中惜敗

	双葉	田村
	2	0
	0	1
	1	3
	4	1
	0	1
	4	1
	A	A
	8	A11

決勝戰
磐中惜敗
八A對五で

決勝戰の磐城、双葉兩中學の試合は午後三時から開始かくて磐中の力戰功なしたものであると

鮮魚商組合總會
二十四日に開く

平鮮魚商組合では廿四日午前九時より白銀町取引所にて臨時總會を開くと

學校	磐城	學校	双葉
中	5	中	5
集	0	集	0
双	0	磐	0
一	0	一	3
二	2	二	0
三	0	三	0
四	2	四	0
五	0	五	0
六	2	六	3
七	1½	七	0
	5		8A

學校	磐城	學校	双葉
中	部	中	村
集	妻	集	井
双	阿藤	双	今
一	朝	一	岩
二	佐藤	二	宇
三	匠	三	中
四	水	四	井
五	管	五	澤
六	布	六	新
七	大	七	川
	吉		太
投	弘	投	美
中	義	中	郷
捕	藤	捕	上
遊	野	遊	村
左	野	左	工
投	谷	投	保
三	平	三	久
中	田	中	田
右		右	
一		一	
二		二	

四倉町の修港案
縣と安藝博士に 町から躍起運動

石城郡四ッ倉港と相馬郡中村町松川浦の第二種港灣の實施計畫はその何れか一港か本年度から着手されることになつてゐるが安藝工學博士が下見のため過般來縣調査の上目下飯坂温泉に滯在中なので四ッ倉港灣期成同盟會では委員を擧げ目下縣に向つて猛運動を續けてゐる

四倉繭相場
廿二日商況

總貫數八一貫六一〇白六五貫四〇〇黄一六貫二〇〇最高白三六四圓黄二八圓一〇最低白二四圓黄二八圓一〇買馴白三四圓五〇黄二八圓一〇

○掛目白三一黄三〇

實父殺しの精神鑑定
東北醫大で

双葉郡新山町大字前田製米業半谷寛(四二)が去月十二日頃飲酒の上實父權兵衛(六八)の頭部を鐵瓶を以て毆打し同月二十五日遂に死に至らしめた事件は目下平支部の豫審中であるが同人の精神に疑はれる點があるので二十二日朝平署古川巡査が護送して仙臺東北醫大石川博士の鑑定を受けた

ロープを切斷し運搬トロを落下
會社側に恨みの仕業か 被疑者平署に召喚

石城郡綴内郷村字白水不動澤五十嵐鑛業所機械工佐々木初太郎工夫大河原博、小林善四郎は二十一日突然平署へ拘引をされたので亥之礦に於て去る廿六日午後十又某が前記三名の差入れ辨當を願出た所又々亥之又某も拘引されたが仄聞するところに依れば前記不動澤炭礦に於て去る廿六日午後十

炭役員の慰安會

石城郡内郷村磐城炭礦濱崎勞務課長以下組長世話役五十餘名は二十二日同郡草野村新舞子海岸に於て慰安會を催した

◆いくつになつても子供に見ゆる親心……イクラ變波でもコンナ句は物にならないだらうか、久本さゝ子姐さんが災難除けのつもりか口癖に子供々々と吹聽してる牢玉のぼたんとやら、丑滿時の夜な〳〵縣社八幡宮附近をさまようて歩くのはヘンなものネと其邊での評判◆序に竹の家のこれも子供々々で通つてゐる千歌丸の縣の三角關係など大分騒がれてるが、それでも小艶姐イさん、うちの千歌丸はナゼこんなにいつまでも子供なんだらう……障子越しに立聞、千歌丸、赤い舌をペロリ——◆入梅にかゝつた梅の實は毒にならぬとされてるが、山形屋の牢玉上り、小波姿イ今年に限つて櫻桃の甘いのよりすつぱい生梅が好きになつたワアと喰ふこと嚙ちること、併しアンナニ喰つちやた腹が乾度眠れるだらう、何言つかくて磐中の力戰功なしたものであると

田中惜敗
双中十一A對八で勝つ

双葉中學對田村中學は正午より田中先攻で開始十一A對八で田中惜敗

	双葉	田村
	2	0
	0	1
	1	3
	4	1
	0	1
	4	1
	A	A
	8	A11

決勝戰
磐中惜敗
八A對五で

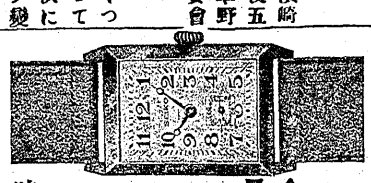
決勝戰の磐城、双葉兩中學の試合は午後三時から開始かくて磐中の力戰功なし

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇

平町五丁目角
大販賣店　山野邊藥局

入院謹意(自炊の便あり)
X光線科
外科專門
下南町
上田外科醫院
電話一一九
病室完備

セイコー時計の値下斷行
景品は特賣



金解禁で…國産品の愛用…
景品總額金拾貳萬圓
景品内譯
一等　蓄音器壹台
二等　置時計壹ケ　五百本
三等　置時計壹ケ　一千本
四等　目覺時計壹ケ　五千本
五等　特製ナイフ　全部へ
時計は信用ある精工舍製品を
特約店　平三
大谷時計病院
電話十九番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科
外科花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

吉田眼科病院
平町紺屋町